

平成 24 年度

知床世界自然遺産地域における歩道等保全管理業務

報 告 書



平成 24 年 11 月

釧路自然環境事務所

羅臼山岳会

1. 業務概要

1-1 業務目的

知床は、北半球で最も低緯度に位置する季節海氷域であり、海洋生態系と陸上生態系の相互関係の顕著な見本であると共に、世界的に希少な鳥類を始めとした多くの動植物の生息・生育にとって重要な自然を有する地域であり、平成17年7月17日には世界自然遺産へ登録された。

知床山系の最高峰である羅臼岳は、道内はもとより道外から年間約7千人の登山者が訪れている。登山道においては、春先の融雪と大雨等により洗堀や段差が生じ、歩行に支障をきたしている区間があるとともに、高山植物保護のために設置した立入り防止ロープの損傷や、踏み分けが著しい箇所が一部に見られる等、高山植物等の保護のための早急な対策が必要である。

そのため本業務は、羅臼岳登山道の羅臼温泉から羅臼岳山頂までの区間において、必要な補修整備を実施するものである。

1-2 業務内容

(1) 登山道の維持補修等

羅臼岳登山道・羅臼地区		
作業内容	区間・数量	資材
雪溪上のルートの明確化のための鉄杭約30m毎設置、週1回程度の維持管理 雪溪上のルートの明確化のための防止誘導ロープの試験的設置	お花畑～岩清水、お花畑～羅臼平	鉄杭（現地デポ） ナイロンロープ（4ミリ400m赤）（新規購入）
傾斜化した歩道の修復（土切り、石組み、土のう積み等）	第二の壁、登山川出合い、泊場周辺等	土のう袋20袋、鍬、スコップ、剪定鋏、手鋸
植生保護のための鉄杭、ロープの補修等	お花畑～岩清水、お花畑～羅臼平1.5km	鉄杭（8ミリ×300ミリ）（21本新規購入） クレモナロープ（8ミリ200m）（新規購入）

2. 実施作業

2-1 使用資材

鍬3丁 スコップ2丁 剪定鋏4丁
ハンマー3丁 スプレーペンキ赤1本
手鋸2丁 ピンクテープ1巻

ナイロンロープ 4mm×400m



クレモナロープ 8mm×200m

鉄杭 8mm×30cm 21本

土のう袋20枚



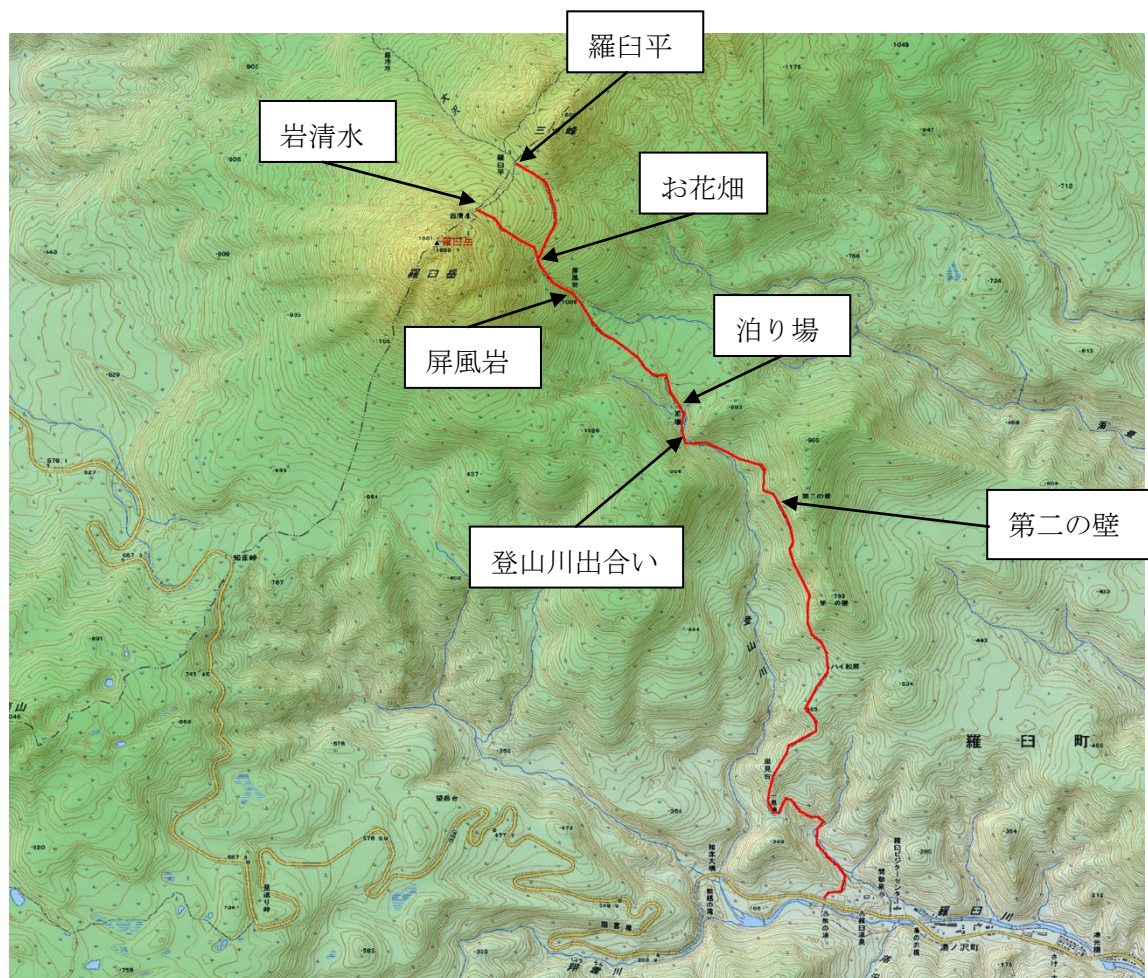
2-2 実施作業内訳

作業実施日時	作業人数	作業区間	作業内容
6/26 5:00～18:00	1名	第二の壁、登山川出合い、泊り場等	下見、路面整齊、落石等の障害物片付け
6/29 5:00～18:00	3名	登山川出合い、泊り場、屏風岩、お花畑等	笹刈り、屏風岩に迷い込み防止ロープ設置、お花畑～岩清水間の雪渓上への誘導ロープ設置
7/19 5:00～18:00	2名	第二の壁、登山川出合い、泊り場、お花畑等	笹刈り、お花畑～羅臼平間の雪渓上への誘導ロープ設置、お花畑付近誘導ロープ等手直し、落石等の障害物片付け
7/26 9:00～16:00	1名	第二の壁、登山川出合い等	路面整齊、落石等の障害物片付け
7/28 5:00～18:00	4名	第二の壁、登山川出合い等	路面傾斜部の修復(土切り)、路面整齊、石積み、笹刈り
8/19 5:00～18:00	3名	第二の壁、登山川出合い、泊り場、屏風岩、お花畑、羅臼平、岩清水等	枝はらい、笹刈、お花畑付近植生保護ロープ補修・150m新設、お花畑付近誘導ロープ撤収、泊場周辺の路面傾斜部の修復(土切り)
9/3 6:00～16:00	1名	第二の壁、登山川出合い等	路面整齊、落石等の障害物除去、登山川出合い付近の洗堀部に土のう積み(7袋)
10/8 6:00～17:00	2名	お花畑、羅臼平、岩清水等	お花畑付近植生保護ロープ補修・50m新設
10/19 6:00～15:00	2名	第二の壁、登山川出合い、泊り場、屏風岩等	総点検、屏風岩迷い込み防止ロープの冬季撤収

※6/29、10/19の作業には環境省担当官が同行した。

2－3歩道等保全管理業務 実施位置図

羅臼岳登山道 羅臼温泉から羅臼岳山頂までの区間



2-4 作業写真



6/29 屏風岩迷い込み防止ロープの設置



6/29 雪溪上への誘導ロープ設置



7 / 1 9 屏風岩下部ロープ手直し



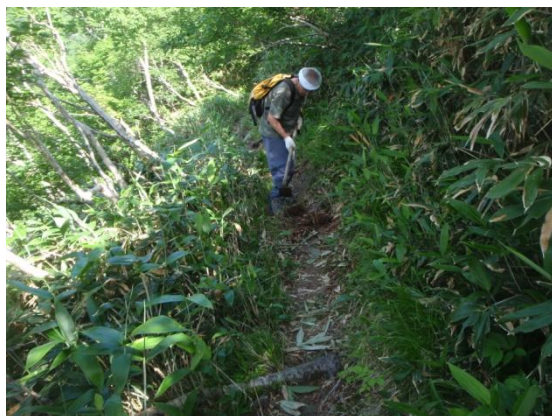
7 / 1 9 雪溪上の誘導ロープ手直し



7 / 1 9 雪溪上の誘導ロープ設置



7 / 1 9 第二の壁倒木処理

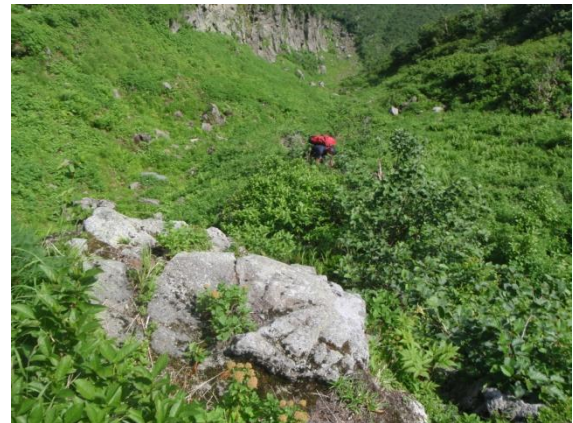




7 / 28 第二の壁～登山川出合い 笹刈り



8 / 19 羅臼平～お花畑 笹刈り



8 / 19 屏風岩～登山川出合い 笹刈り



8 / 1 9 植生保護ロープ補修



8 / 1 9 植生保護ロープ新設



8 / 1 9 泊場周辺の路面傾斜部の修復





10 / 8 羅臼平手前の洗堀の状況



10 / 8 植生保護ロープ補修・新設



10 / 19 屏風岩迷い込み防止ロープ 冬季に向けて撤収

3. 今年度の作業状況と今後の提案

3-1 雪渓上のルートの明確化のための鉄杭の設置、維持管理

お花畑～岩清水及びお花畑～羅臼平の区間について、ピンクテープを巻いた鉄杭（釧路自然環境事務所から貸与）をおよそ 30m毎に設置し、融雪状況に合わせて維持管理することとなっていたが、6月29日の段階で、昨年度に釧路自然環境事務所が鉄杭をデポした地点一帯に多量の雪渓が残っており、鉄杭の貸与を受けることが出来なかった。また、その後の7月19日の時点でも融雪が進まず鉄杭が利用できなかったため、試験的に設置することとしていた400mのロープのみの設置と維持管理を行った。

ロープは起点を岩清水方向の雪渓上部のハイマツの根元に固定し、雪渓上を這わせて末端を屏風岩上部の灌木に固定した。

持参した一卷400mはお花畑～岩清水間でほぼ全て使用したため、羅臼平コースについては7/19に同様の形で約100mのロープ設置を行った。

赤系の着色ロープ（細引き）は雪上でよく目立って、雪渓上のルートの表示方法として十分効果が認められる。

岩清水～お花畑の区間は、雪渓の岩清水側からお花畑側まで直線的にルートを示せばよく、300m以上の長い距離ではあるが、両端をハイマツや灌木にしっかり固定することで鉄杭と併用しなくても特に問題は認められなかった。

従来から行われている鉄杭によるルート誘導は融雪の進捗状況により頻繁な維持管理を必要としていたが、ロープによるルート誘導によりこれを省略することができ、管理コストの軽減が可能である。

なお、今年度設置した誘導ロープが切れているとの情報を得て手直しを行ったが、固定ロープは岩清水側の固定点から100m下方で切断しており登山者が下降時に手すり代わりに掴まるなどして人為的に切られたと思われる（後ほど登山者からその状況の目撃情報を得た）。

次年度以降の対応策としては

- ①今回は試験的な設置のため径4mmの細引きを使用したけども径の太いもの、6mmないし8mmのトラロープなどを使用する。
 - ②登山口や現地に誘導ロープであることを明示し、登下降時に掴まらないことをお願いを周知する。
- などが想定される。

3－2 傾斜化した歩道の修復

①第二の壁～登山川出合い、

この区間は、急傾斜の斜面をトラバースする形で登山道が続いており、高低差はあまりないがアップダウンが多く、融雪時に山手の壁側からの落石もあって路面は礫が堆積し、近年傾斜化が進んでいる。

今回は鍬による傾斜部分の修復を重点的に行ったが、礫交じりの土質に根曲がり竹の根が深く刺していて、それらを除去しながらの修復は非常に手間がかかるところであり、そのため長年放置されていた区間でもある。

工法的に抜本的なものではなく、毎年続けて人手を投入し、鍬、つるはし、スコップ、剪定鋏等で地道に土切り、落石の除去、笹刈り等の作業を実施して地道な維持管理を続けていくことが必要である。

また、登山川出合いの洗堀部分に土のうの新設を行った。土のう設置の効果のためか、その後洗堀は進んではいないようであるが、今後も水切り、土のうの補充を継続していく必要がある。

②泊り場周辺

泊り場周辺においても、土切りを行い傾斜化した歩道の修復を行った。硫黄混じりの固い岩盤であるが山水がしみ出しているため春の融雪後にまた傾斜化するおそれがあり、ここも例年継続して土切り作業の必要があると思われる。

3－3 植生保護のための鉄杭、ロープの設置

お花畑～岩清水及びお花畑～羅臼平区間において既存の植生保護ロープの補修及び200mの新設を行った。ロープの新設は、お花畑から岩清水方面に約 150m、お花畑から羅臼平コースに約 50m実施した。

なお、羅臼平から 100m 下方のハイマツ帯に至る区間で 100m に亘って新たな歩道の洗堀が始まっている。ここの洗堀部は狭くて深いため（幅 50 c m、深さ 50 c m 程度）登山者は事実上歩道を歩くことができず、その脇の植生が歩道化しつつある。但し洗堀が始まって間もないことと登山者が少ないため植生がさほど痛んでいない部分もある。

そのためこの区間においてはかなり古い既設の植保護ロープがところどころあるものの、歩道区域を特定することは難しいため、張り直しを見送りしている。

今後何らかの対策の検討が必要と思われる。

対応策としては

①現道を修復する（洗堀部分をかさ上げ、拡幅など修復工事を施し、水切り、石組み

工法等により浸食を押さえながら利用する)。

②その脇の植生帯に付け替えする（希少植物等の有無を調査してから判断を要する）。

といった案が想定される。